

言葉のレメディーで少年の盗癖が改善したケース

11歳 男性

主訴 盗みや物損行為により手に負えない

松井啓喜 CHhom11期（在学）

タイムライン

- 0歳 獄中出産
- 2歳 父方祖父母が養育
- 3歳 母が養育。虐待により、外傷性くも膜下出血、頬や頭部の打撲。母逮捕。A施設で育つ。
- 9歳 A施設から家庭復帰。
- 10歳 家を飛び出し、警察に保護される。B施設入所となるが、無断外出、盗み、物損行為。私が勤務するC施設入所。

ある出来事①

【他児童のおやつや物がなくなる】

T君 「誰も俺を信じてくれない」

私 「あなたを信じる」



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nd/4.0/) のライセンスを許諾されています

ある出来事②－ 1

【他児童のラジオがなくなる】

T君「ここは優しすぎる。だから（盗みを）
やめられない」

私「いくらでも厳しくはできる。でも、厳
しいやり方じゃないところに行ったと
き、また同じことを繰り返すよ」

ある出来事②ー 2

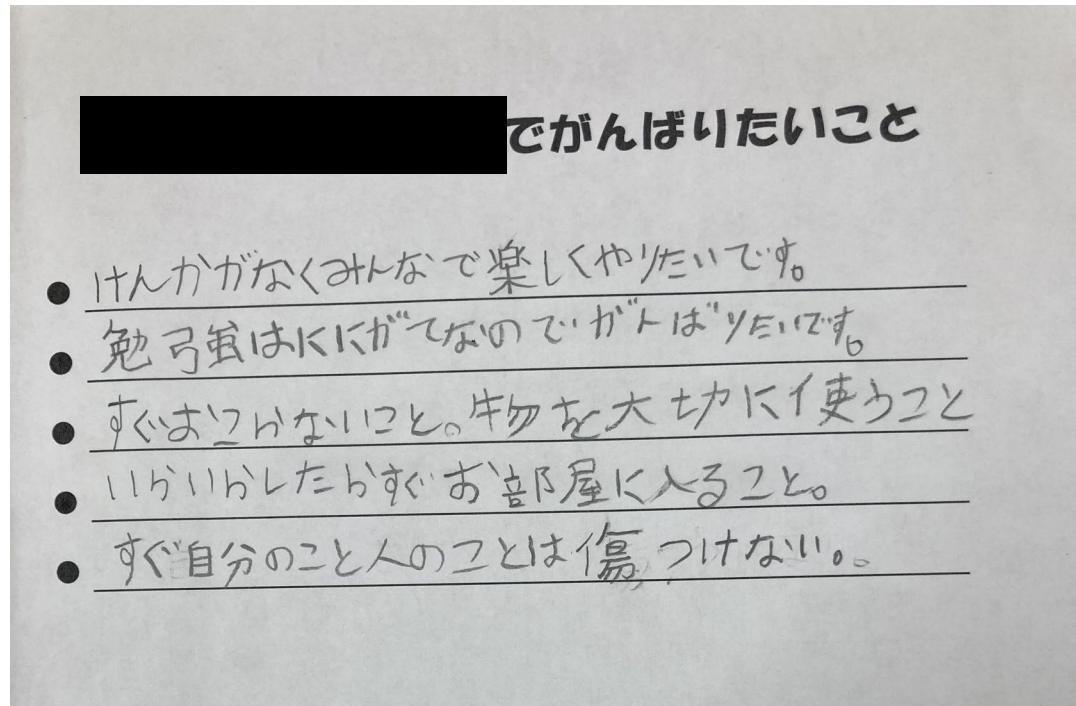
T君「昔は、お母さんにぶん殴られて
たし...」

私「何をしてぶん殴られた？」

T君「物を壊して...やってないって嘘
ついて、後からばれてぶん殴ら
れた」

【結果】 T君の変化①

T君が書いた目標



【結果】 T君の変化②

私 「今ここにぶん殴る母ちゃんはあるか？ぶん殴る先生たちはいるか？」

T君 「いない...」

【考察①】

虐待による

- ・ 存在の否定
- ・ 大人への不信感
- ・ 自己肯定感の低さ
- ・ 満たされない怒り、恐れ、悲しみ

【考察②】

私が念頭に置いたこと
その子のありのままを受け
入れる

例 「あなたを信じる」
「安心していい」
「素直に言えたら嬉しい」

【考察③】

- ・ 過去の恐怖心による囚われを代弁・言語化し、無自覚だった言動を意識化・整理
- ・ 受け入れてくれる大人がいる
- ・ 自分の居場所がある